

2018年1月

リーダーシップの力について

～松下幸之助に学ぶ～

経営学部 経営学科 幡鎌ゼミ

B4R11152 橋本悠磨

【卒業論文概要】

組織においてリーダーは必要である。リーダーがいなくては統率力もなく、皆何を目的にすればいいのかわからなくなってしまう。多くの人は、自分が将来何をやりたいのかもわからない、つまり夢の見つけ方を知らないということに気づいた。いま現在、日本には夢を持っていない人が大半である。夢を持っていない人と夢を持っている人では将来の年収も大きく変わってくる。暗い顔やつまらなそうに毎日を過ごすのではなく、自分の夢、やりたいことに向かっていく人生のほうが楽しいと思う。たった一度きりの人生、やりたいこと楽しいことをやってもらいたいと思う。そのために大事なことは、リーダーが周りに与える影響力、環境だと考えた。

私はリーダーシップがまず何かを考え、そこから人間関係の築き方、人の育成の仕方、モチベーションの保ち方などを調べ、経営の神と言われている松下幸之助から人材育成について学んでいきたいと考える。

まずリーダーシップの変化について調べ、リーダーに必要な要素を明らかにする。リーダーにとって大事なものは目的を明らかにすることである。Goalを決めなければ、道筋が立てられなくて皆迷ってしまう。だからこそGoalを明確にして逆算して物事を考えるようにする。そして、人間関係を良好にするための基本的な人の欲求充足について考えていきたいと思う。人の欲求の満たし方は、人それぞれ違う同じ人はいない。だからリーダーは人が今何を求めているかをいち早く察知することが求められる。

そして、松下幸之助から経営学、人の育て方を学ぶ。松下幸之助は企業の目的は利益追求ではないと言っている。利益は確かに大事であるが、利益を念頭に置くと、問題が起きてしまうと述べている。人の育て方としては、「凡事徹底」と「観面注意」を中心に人材の育成を行っている。松下幸之助が創業した松下電器は、松下幸之助の掲げたビジョンが浸透しているから従業員も意欲的に仕事に取り組んでいると感じられる。社名が変わったパナソニックの経営理念にも、創業当時と変わらず「社会を豊かにする」という目的が書かれていた。松下幸之助の考え方が今もお根付いているからこそより品質の良いもの開発に取り組んでいる。リーダーが与える影響力は他の人に成長に促すと感じた。